

(17) 市民の環境活動について

① 市民の、環境に配慮した生活行動の有無

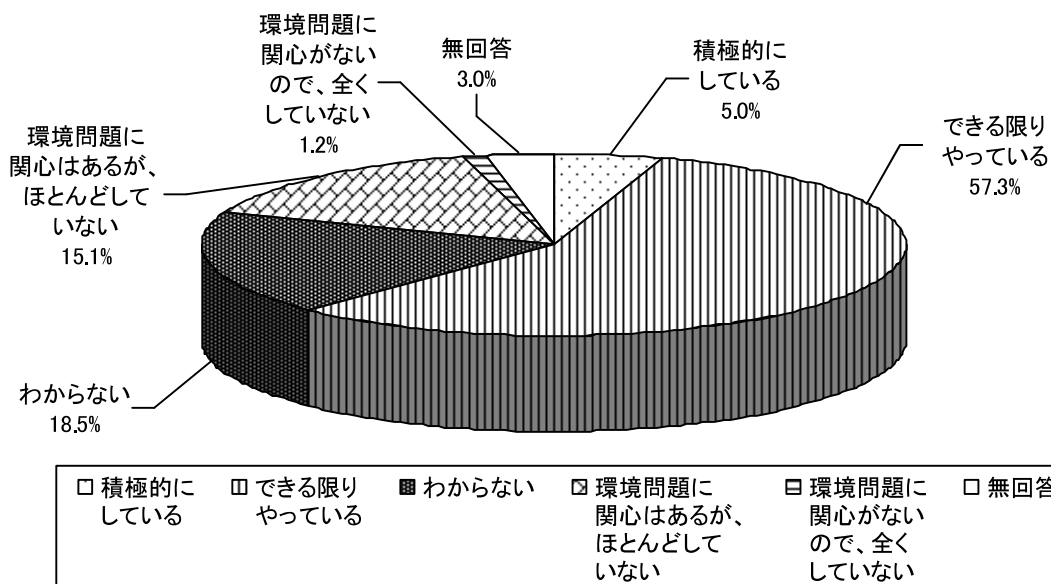
問 22 北九州市では、「世界の環境首都」を都市のブランドの一つに掲げ、国に認定された環境モデル都市として、低炭素社会実現をリードする取組を市民、NPO、企業などと一体となって進めています。そこで、おたずねします。  
あなたは、日ごろから環境に配慮した行動をしていると思いますか。

N : 1,322 人

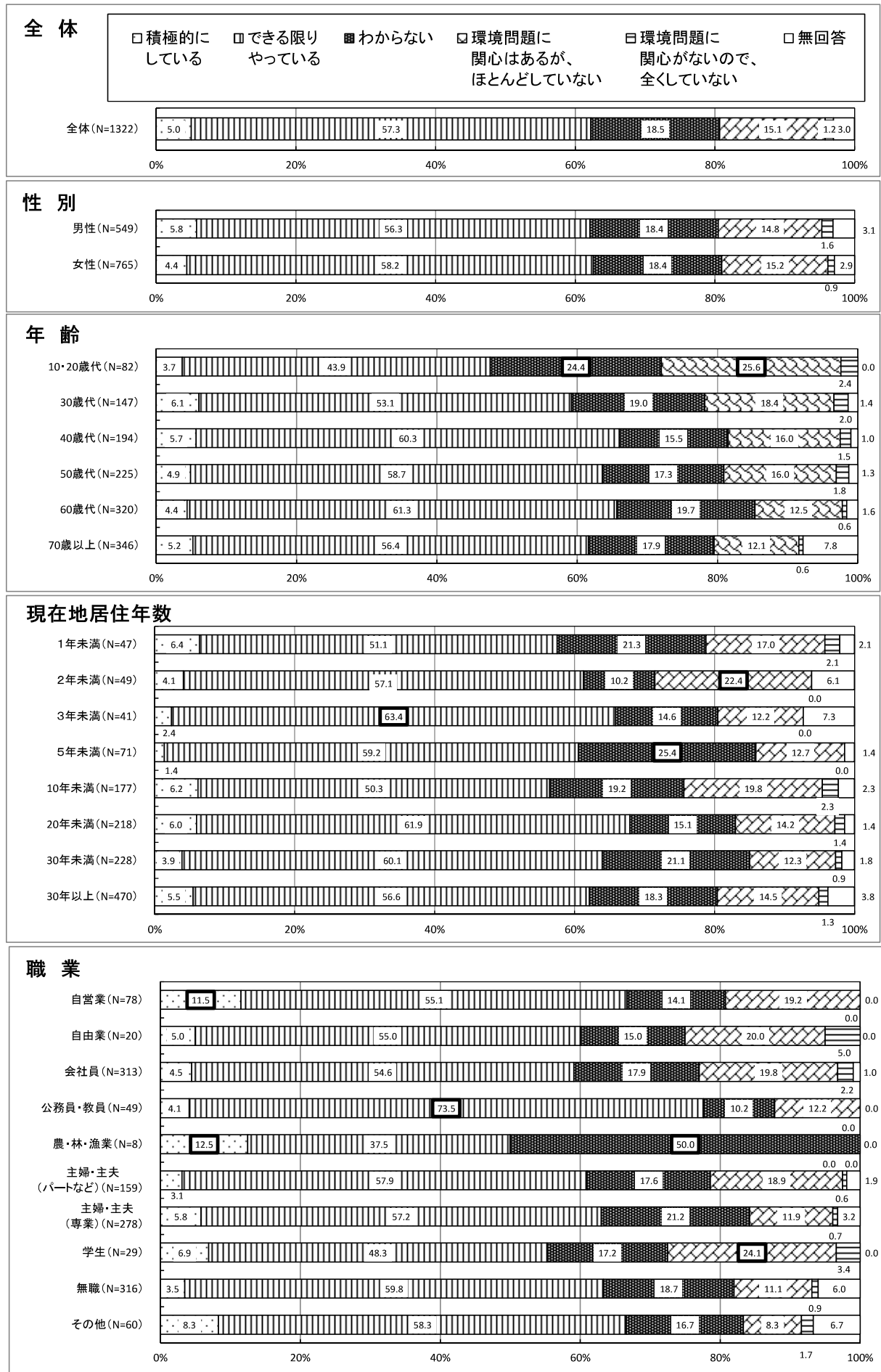
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 積極的にしている	66	5.0
2 できる限りやっている	757	57.3
3 わからない	244	18.5
4 環境問題に関心はあるが、ほとんどしていない	199	15.1
5 環境問題に関心がないので、全くしていない	16	1.2
無回答	40	3.0

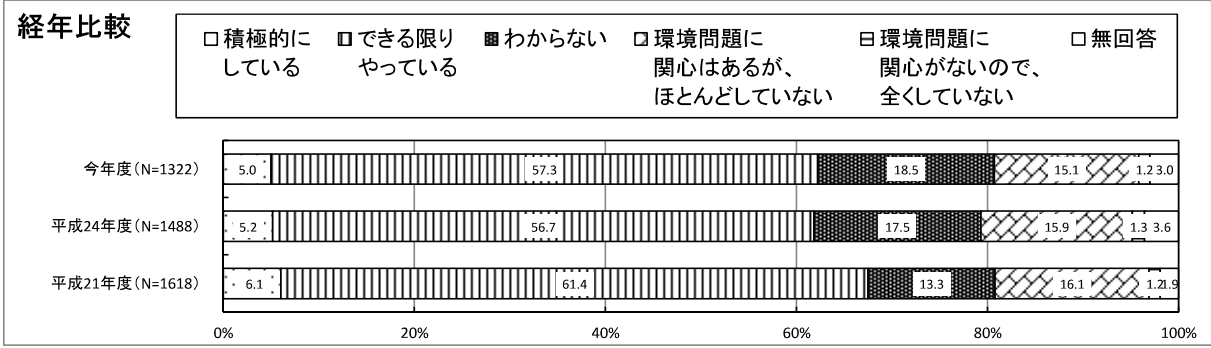
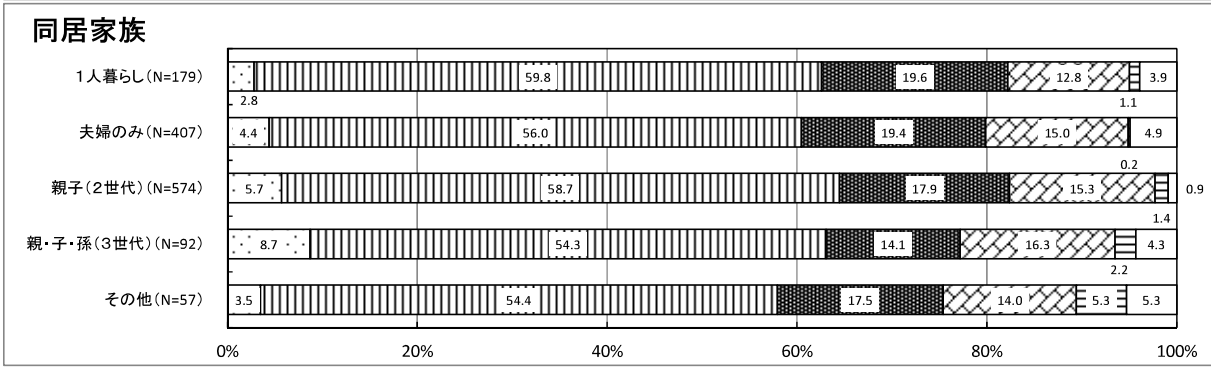
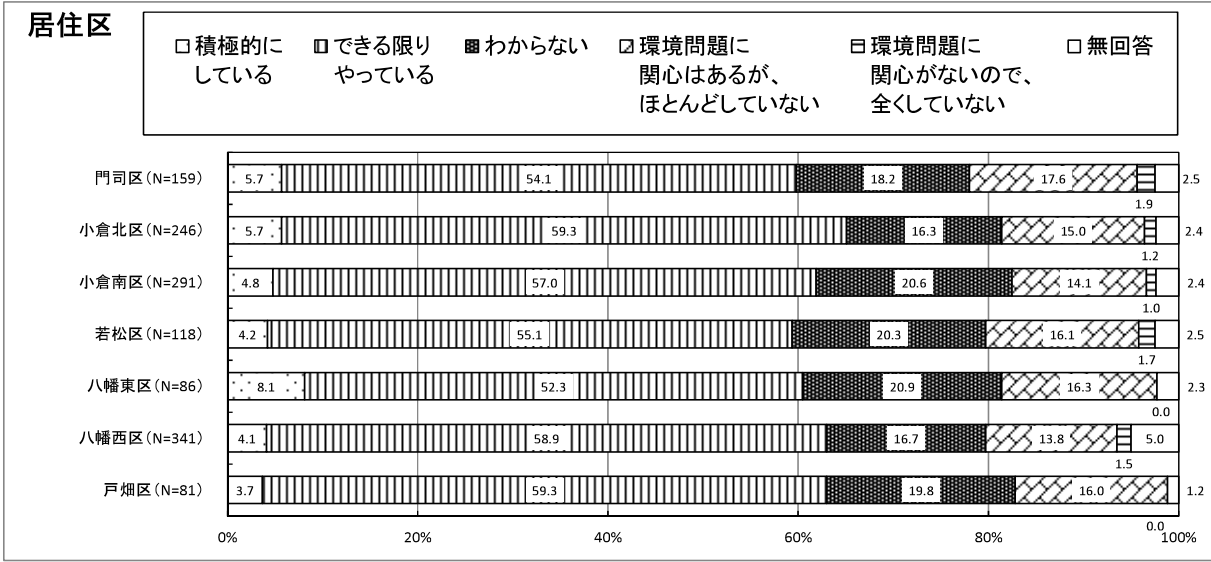
◇ 市民が日常からどの程度、環境に配慮した行動をしているかについては、

- ・肯定層 62.3%  
(「積極的にしている」5.0%+「できる限りやっている」57.3%)
- ・否定層 16.3%  
(「環境問題に関心はあるが、ほとんどしていない」15.1%  
+「環境問題に関心がないので、全くしていない」1.2%)



① 市民の、環境に配慮した生活行動の有無





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

## 市民の、環境に配慮した生活行動の有無

### 【全体的傾向】

市民の、環境に配慮した生活行動の有無をみると、「積極的にしている」は 5.0%、「できる限りやっている」は 57.3%、合計すると、肯定層は 62.3%である。一方、「環境問題に関心はあるが、ほとんどしていない」は 15.1%、「環境問題に関心がないので、全くしていない」は 1.2%、合計すると、否定層は 16.3%である。

肯定層（62.3%）が否定層（16.3%）を 46.0 ポイントと非常に大きく上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、肯定層は 10・20 歳代で 47.6%と、唯一 5 割を下回っている。また、否定層のうち「環境問題に関心はあるがほとんどしていない」は、10・20 歳代で 25.6%と唯一 2 割を上回っている。
- 職業別にみると、肯定層は公務員・教員で 77.6%と特に高くなっている。否定層については、「環境問題に関心はあるがほとんどしていない」は、学生で 24.1%と最も高くなっている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成 21 年度及び 24 年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成 21 年度（67.5%）に対し、平成 24 年度（61.9%）は低くなり、今年度（62.3%）は横這いであった。否定層は、平成 21 年度 17.3%→平成 24 年度 17.2%→今年度 16.3%と、ほぼ横這いで推移している。

② 市や市民が取り組む環境への配慮行動への満足感

問 23 あなたは、市や市民の環境に配慮した取組みは自慢できるものだと感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	99	7.5
2 ある程度感じている	605	45.8
3 どちらとも言えない	428	32.4
4 あまり感じていない	106	8.0
5 ほとんど感じていない	29	2.2
無回答	55	4.2

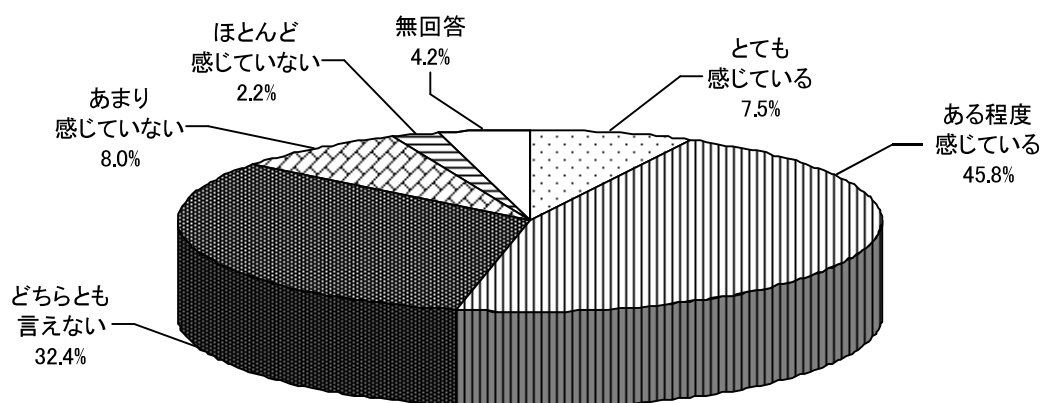
◇ 市や市民が取り組む環境への配慮行動への、市民自身の満足感は、

・肯定層 53.3%

(「とても感じている」7.5%+「ある程度感じている」45.8%)

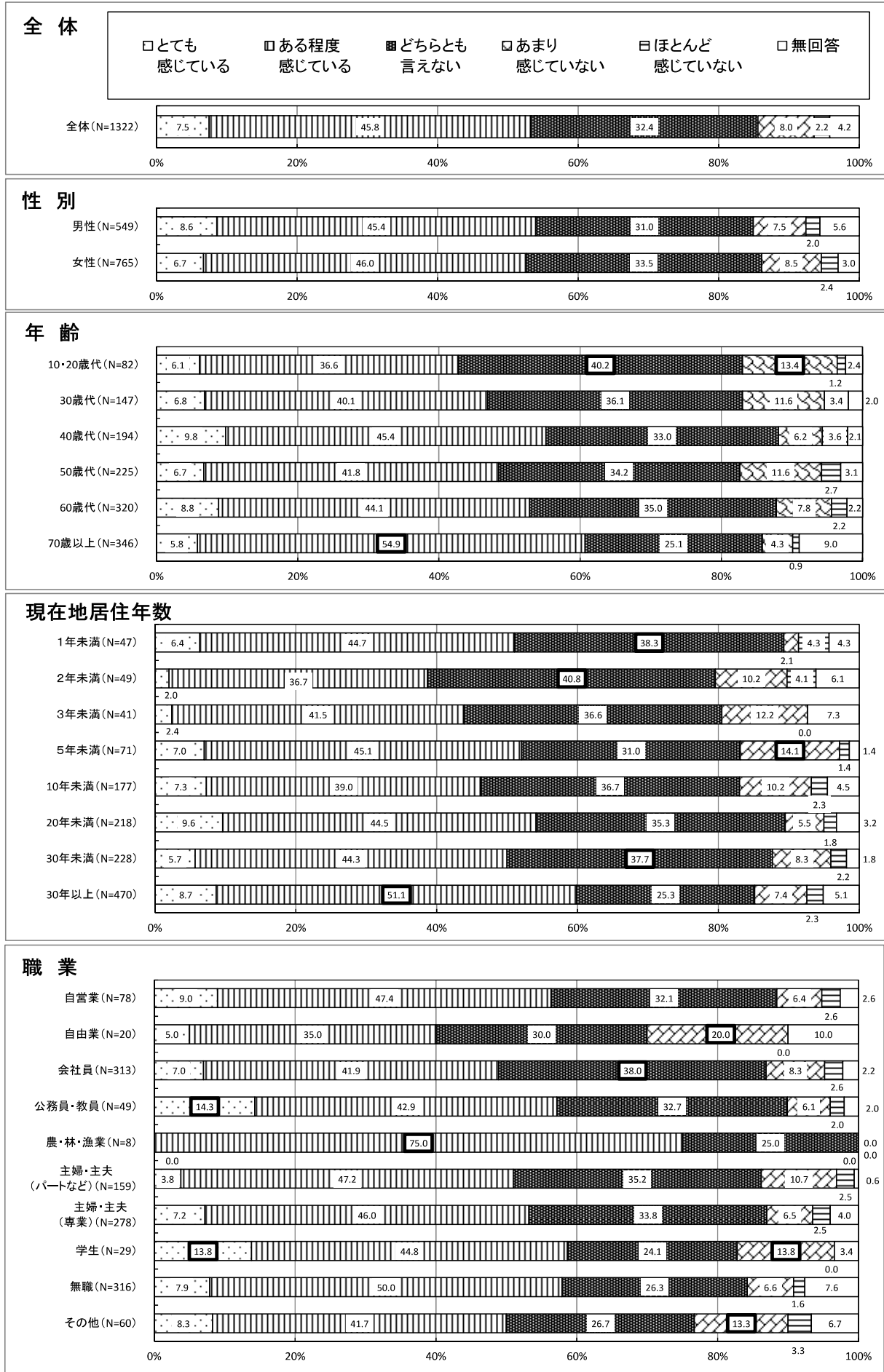
・否定層 10.2%

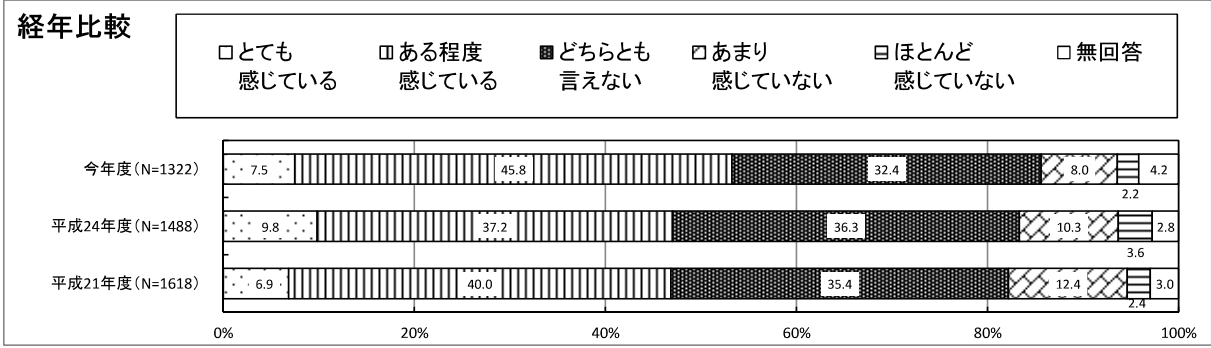
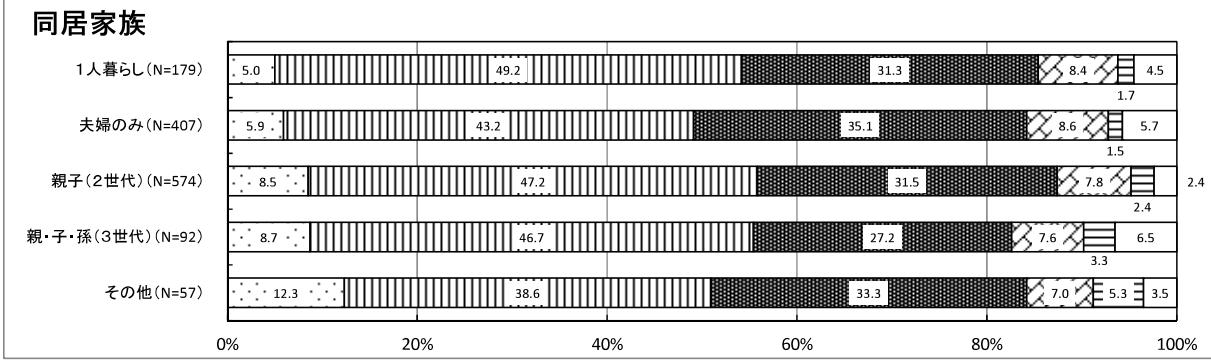
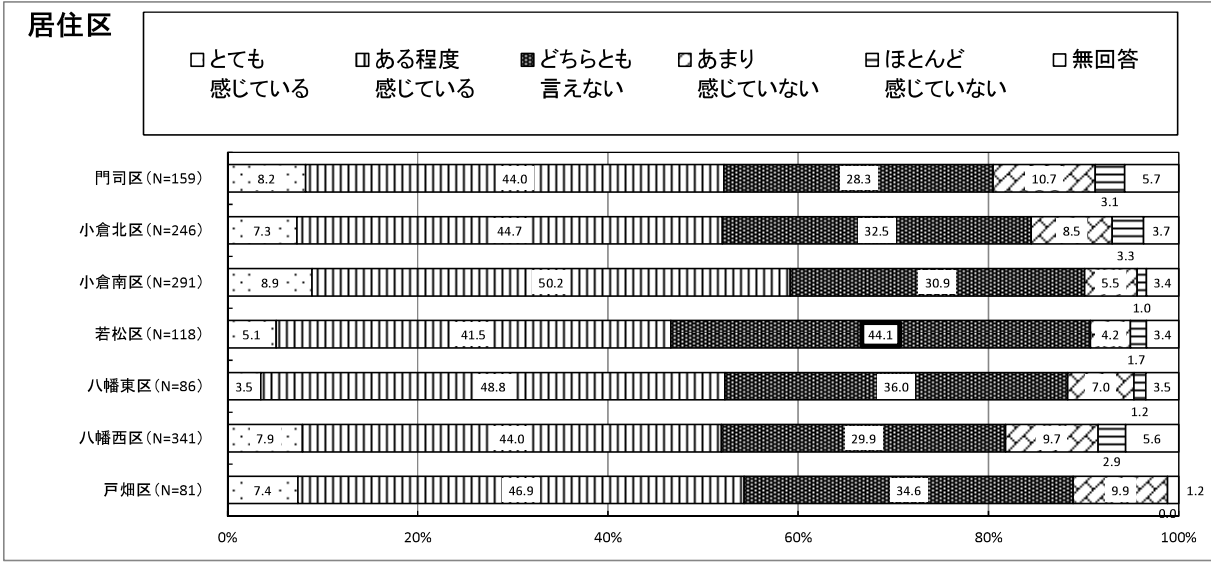
(「あまり感じていない」8.0%+「ほとんど感じていない」2.2%)



とても感じている   
 ある程度感じている   
 どちらとも言えない   
 あまり感じていない   
 ほとんど感じていない   
 無回答

② 市や市民が取り組む環境への配慮行動への満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

## 市や市民が取り組む環境への配慮行動への満足感

### 【全体的傾向】

市や市民が取り組む環境への配慮行動に対する、市民の満足感をみると、「とても感じている」は7.5%、「ある程度感じている」は45.8%、合計すると、肯定層は53.3%である。一方、「あまり感じていない」は8.0%、「ほとんど感じていない」は2.2%、合計すると、否定層は10.2%である。

肯定層（53.3%）が否定層（10.2%）を43.1ポイント上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、肯定層は70歳以上で60.7%と、唯一6割を上回っている。
- 居住区別にみると、肯定層は小倉南区（59.1%）で最も高く、若松区（46.6%）で最も低くなっている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度（46.9%）に対し、平成24年度（47.0%）は横這いであったが、今年度（53.3%）は高くなった。否定層は、平成21年度14.8%→平成24年度13.9%→今年度10.2%と、わずかではあるが毎回低くなっている。



(18) 自然環境について

① 自然とふれ合える、身近な自然環境があることへの満足度

問 24 北九州市は、大都市でありながら山や海など、多様な自然環境に恵まれており、市ではその適正な保全に努めるとともに市民が自然とふれ合うことができる場を整備しています。そこで、おたずねします。

あなたは、北九州市は、自然とふれ合える、身近な自然環境の存在に対するだと感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 そう感じている	360	27.2
2 どちらかといえばそう感じている	561	42.4
3 どちらとも言えない	221	16.7
4 どちらかといえばそう感じていない	99	7.5
5 そう感じていない	24	1.8
無回答	57	4.3

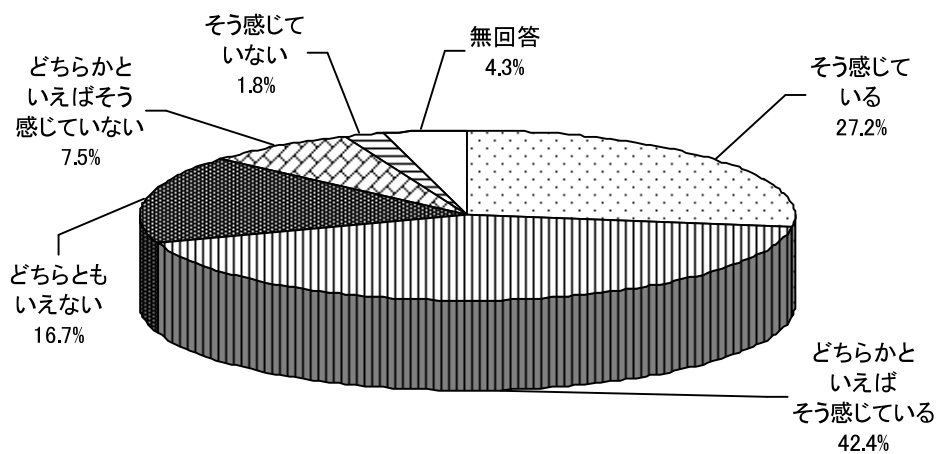
◇ 自然とふれ合える、身近な自然環境があることへの市民の満足度は、

・満足派 69.6%

(「そう感じている」27.2%+「どちらかといえばそう感じている」42.4%)

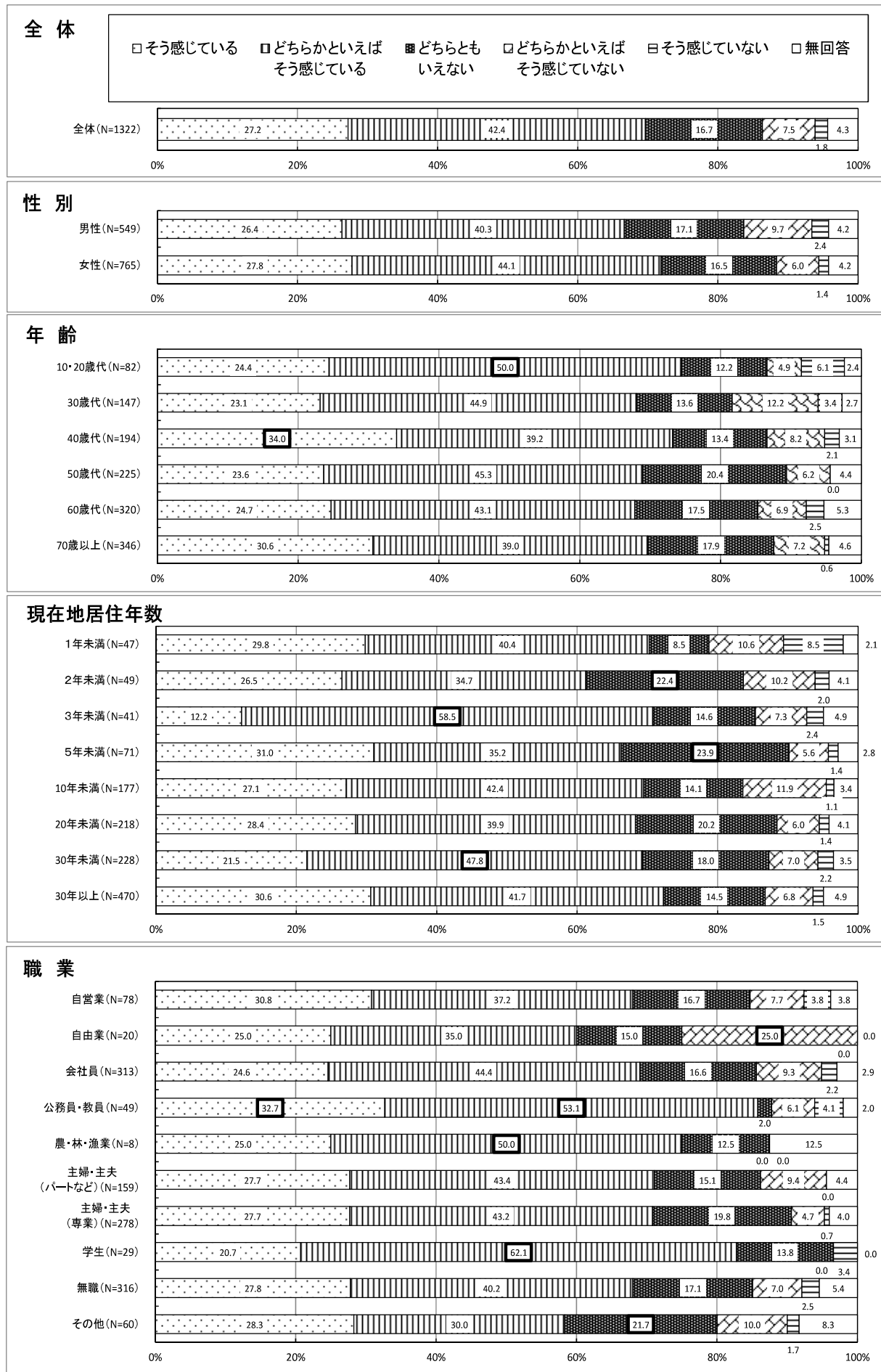
・不満派 9.3%

(「どちらかといえばそう感じていない」7.5%+「そう感じていない」1.8%)



そう感じている   
  どちらかといえばそう感じている   
  どちらとも言えない   
  どちらかといえばそう感じていない   
  そう感じていない   
  無回答

① 自然とふれ合える、身近な自然環境があることへの満足度





② 自然環境を身近に感じられない理由

副問 24-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを1つまで選んで下さい。

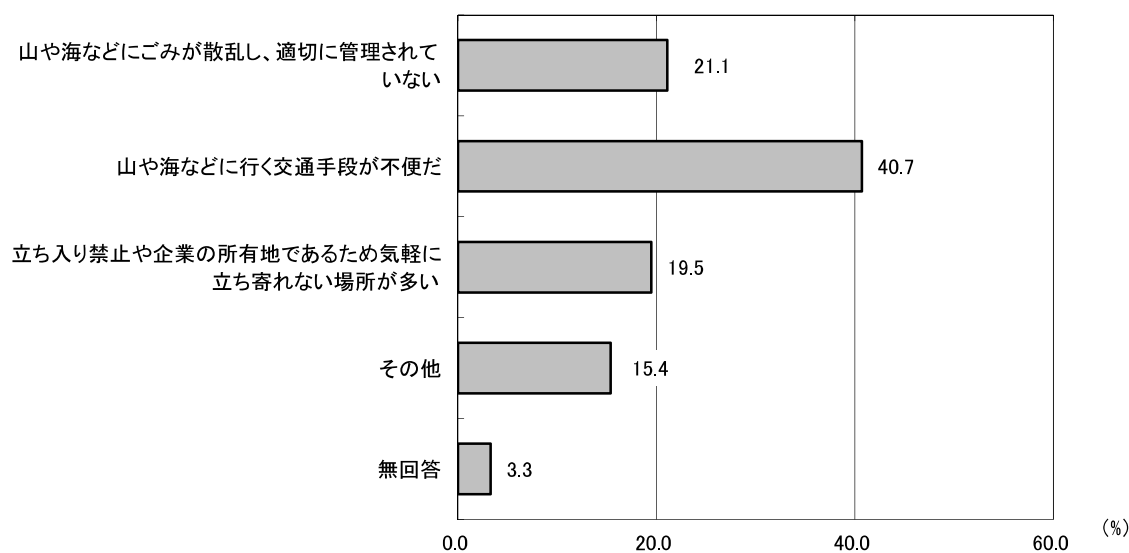
N : 196 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 山や海などにごみが散乱し、適切に管理されていない	26	21.1
2 山や海などに行く交通手段が不便だ	50	40.7
3 立ち入り禁止や企業の所有地であるため気軽に立ち寄れない場所が多い	24	19.5
4 その他	19	15.4
無回答	4	3.3

◇ 自然環境を身近に感じられない主な理由は、

1位 「山や海などに行く交通手段が不便だ」(40.7%)

2位 「山や海などにごみが散乱し、適切に管理されていない」(21.1%)



② 自然環境を身近に感じられない理由

		サンプル数	山や海などにゴミが散乱し、適切に管理されていない	山や海などに行く交通手段が不便だ	立ち入り禁止や企業の所有地であるため気軽に立ち寄れない場所が多い	その他	無回答
全体		123	21.1	40.7	19.5	15.4	3.3
性別	男性	66	16.7	39.4	<b>25.8</b>	13.6	4.5
	女性	57	<b>26.3</b>	42.1	12.3	17.5	1.8
年齢別	10・20歳代	9	<b>33.3</b>	33.3	11.1	22.2	0.0
	30歳代	23	<b>26.1</b>	21.7	21.7	26.1	4.3
	40歳代	20	10.0	<b>50.0</b>	<b>30.0</b>	10.0	0.0
	50歳代	14	14.3	<b>50.0</b>	7.1	14.3	14.3
	60歳代	30	<b>33.3</b>	26.7	20.0	16.7	3.3
	70歳以上	27	11.1	<b>63.0</b>	18.5	7.4	0.0
現所在地居住年数別	1年未満	9	11.1	<b>66.7</b>	0.0	22.2	0.0
	2年未満	6	16.7	<b>66.7</b>	0.0	16.7	0.0
	3年未満	4	<b>50.0</b>	25.0	<b>25.0</b>	0.0	0.0
	5年未満	5	0.0	20.0	<b>60.0</b>	20.0	0.0
	10年未満	23	21.7	30.4	<b>26.1</b>	17.4	4.3
	20年未満	16	18.8	<b>50.0</b>	<b>25.0</b>	0.0	6.3
	30年未満	21	14.3	23.8	<b>28.6</b>	28.6	4.8
	30年以上	39	<b>28.2</b>	<b>46.2</b>	10.3	12.8	2.6
職業別	自営業	9	22.2	44.4	22.2	11.1	0.0
	自由業	5	0.0	0.0	<b>40.0</b>	40.0	20.0
	会社員	36	19.4	<b>50.0</b>	19.4	5.6	5.6
	公務員・教員	5	0.0	0.0	<b>60.0</b>	40.0	0.0
	農・林・漁業	0	-	-	-	-	-
	主婦・主夫(パートなど)	15	<b>40.0</b>	33.3	20.0	6.7	0.0
	主婦・主夫(専業)	15	6.7	<b>53.3</b>	6.7	26.7	6.7
	学生	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	無職	30	<b>26.7</b>	43.3	16.7	13.3	0.0
	その他	7	<b>28.6</b>	28.6	14.3	28.6	0.0
居住区別	門司区	21	23.8	28.6	23.8	19.0	4.8
	小倉北区	27	<b>33.3</b>	<b>55.6</b>	3.7	7.4	0.0
	小倉南区	22	4.5	<b>50.0</b>	22.7	18.2	4.5
	若松区	8	0.0	0.0	<b>50.0</b>	50.0	0.0
	八幡東区	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	八幡西区	36	25.0	41.7	19.4	8.3	5.6
	戸畑区	7	<b>28.6</b>	42.9	<b>28.6</b>	0.0	0.0
同居家族別	1人暮らし	15	<b>40.0</b>	26.7	13.3	20.0	0.0
	夫婦のみ	43	14.0	<b>51.2</b>	16.3	16.3	2.3
	親子(2世代)	49	18.4	44.9	18.4	12.2	6.1
	親・子・孫(3世代)	10	20.0	20.0	<b>30.0</b>	30.0	0.0
	その他	6	<b>50.0</b>	0.0	<b>50.0</b>	0.0	0.0

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

## 自然とふれ合える、身近な自然環境があることへの満足度

### 【全体的傾向】

自然とふれ合える、身近な自然環境があることへの、市民の満足感をみると、「そう感じている」は27.2%、「どちらかといえばそう感じている」は42.4%、合計すると、肯定層は69.6%である。一方、「どちらかといえばそう感じていない」は7.5%、「そう感じていない」は1.8%、合計すると、否定層は9.3%である。

肯定層（69.6%）が否定層（9.3%）を60.3ポイントと非常に大きく上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 居住区別にみると、肯定層は小倉南区（74.2%）で最も高く、八幡東区（61.6%）で最も低くなっている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度（54.2%）に対し、平成24年度（55.3%）はほぼ横這いだったが、今年度（69.6%）は高くなり、特に「そう感じている」の割合が伸びている。否定層は、平成21年度20.2%→平成24年度17.7%→今年度9.3%と、毎回低くなっている。

## 自然環境を身近に感じられない理由

### 【全体的傾向】

自然環境を身近に感じられない主な理由は、「山や海などに行く交通手段が不便だ」（40.7%）が最も高く、次いで「山や海などにごみが散乱し、適切に管理されていない」（21.1%）の順となっている。

### 【属性別にみた傾向】

- 性別にみると、男女ともに「山や海などに行く交通手段が不便だ」が最も高いが、「立ち入り禁止や企業の所有地であるため気軽に立ち寄れない場所が多い」は男性（25.8%）が女性（12.3%）を13.5ポイント上回っている。一方、「山や海などにごみが散乱し、適切に管理されていない」は女性（26.3%）、が男性（16.7%）を9.3ポイント上回っている。
- 年齢別にみると、「山や海などに行く交通手段が不便だ」は70歳以上で63.0%と特に高くなっている。

### 【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ 遊べる自然環境を残した場所がない。
- ・ 海岸沿いに工場が多過ぎて空気が悪い。

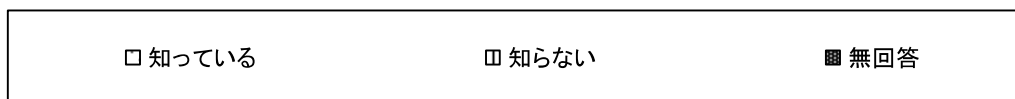
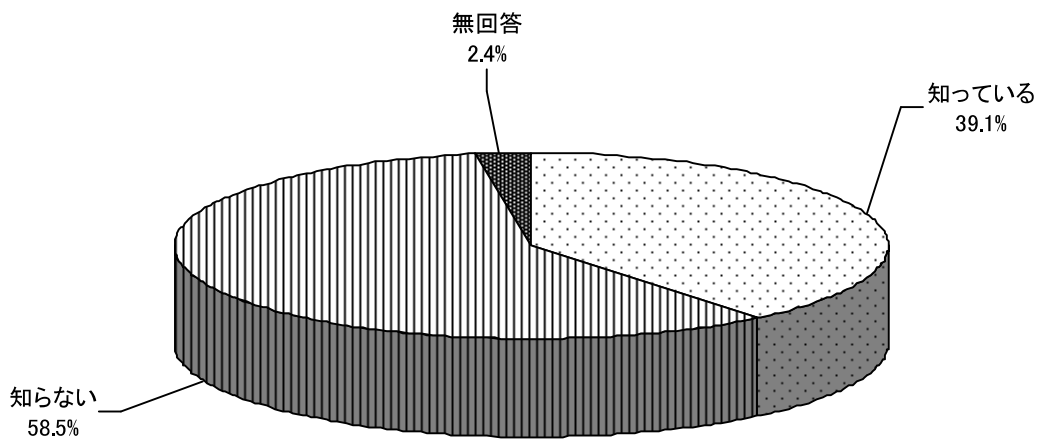
(19) 国家戦略特区について

問 25 北九州市は、平成28年1月に、国が地域を限って大胆な規制緩和などを実施する「国家戦略特区」に指定されました。今後、介護ロボットの開発やシニアハローワークの設置など、「高齢者の活躍や介護サービスの充実による人口減少・高齢化社会への対応」をすすめていきます。そこで、おたずねします。  
あなたは、北九州市が国の「国家戦略特区」に指定されたことを知っていますか。

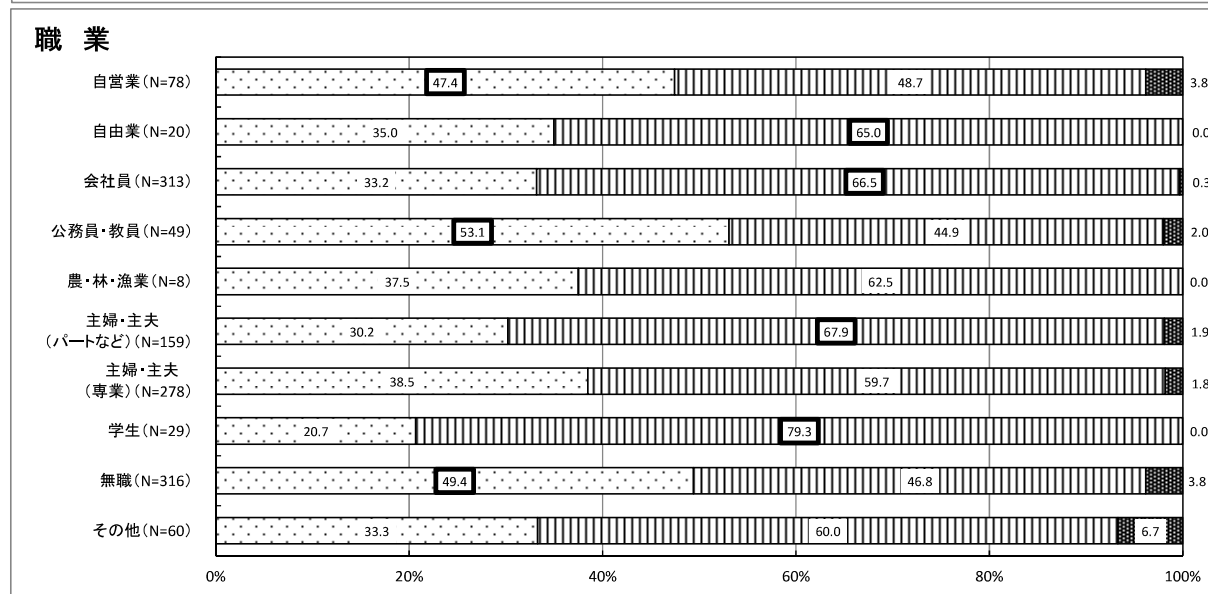
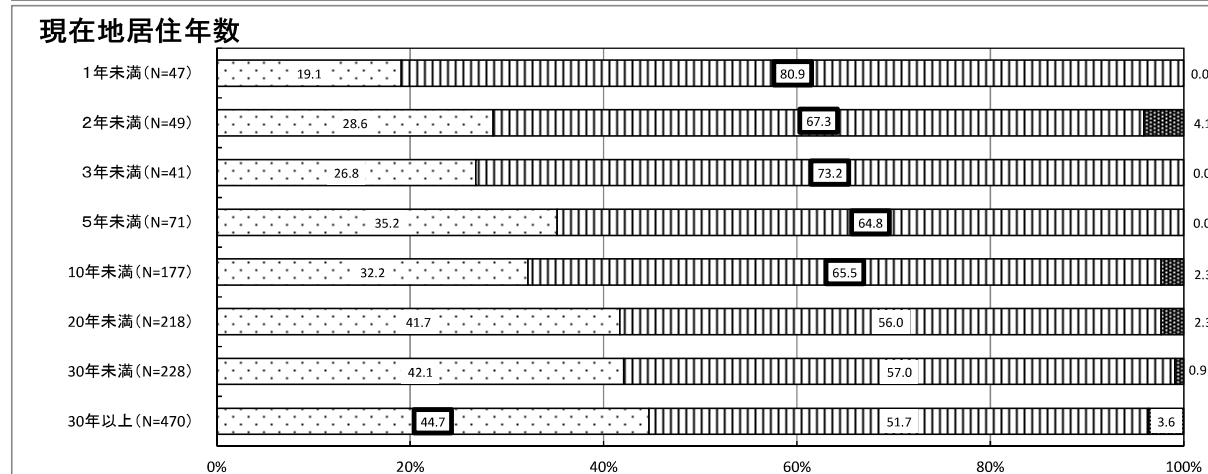
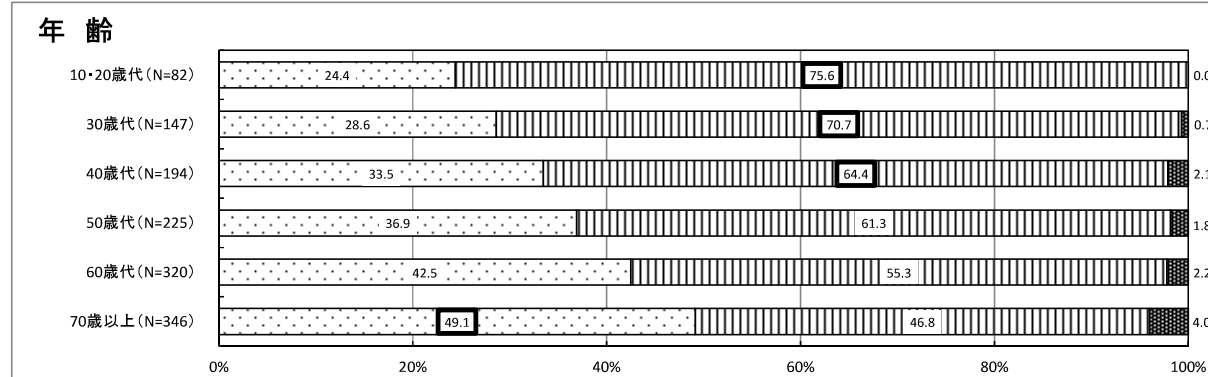
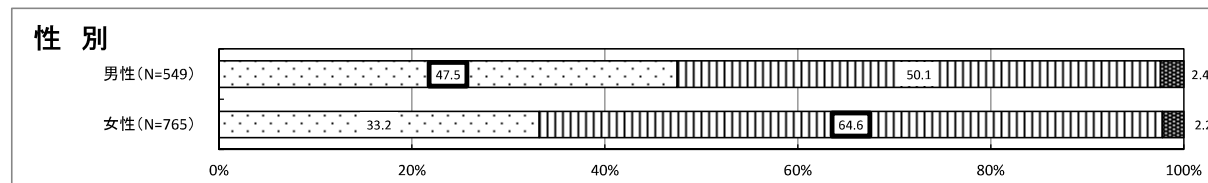
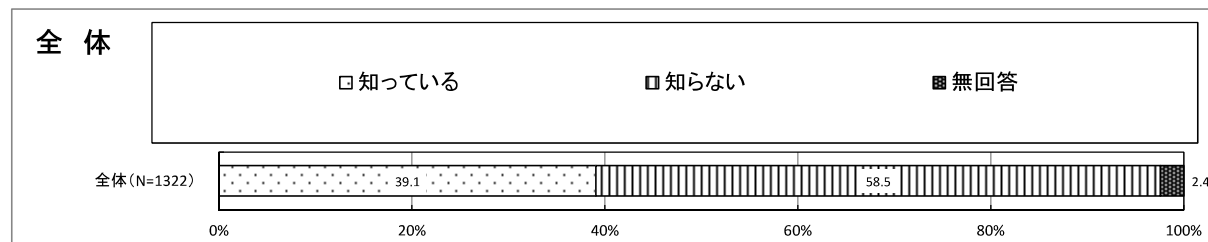
N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 知っている	517	39.1
2 知らない	773	58.5
無回答	32	2.4

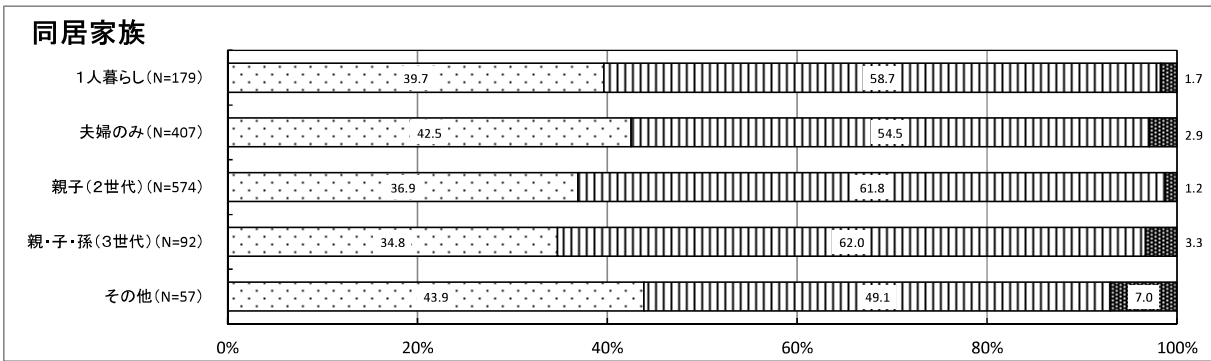
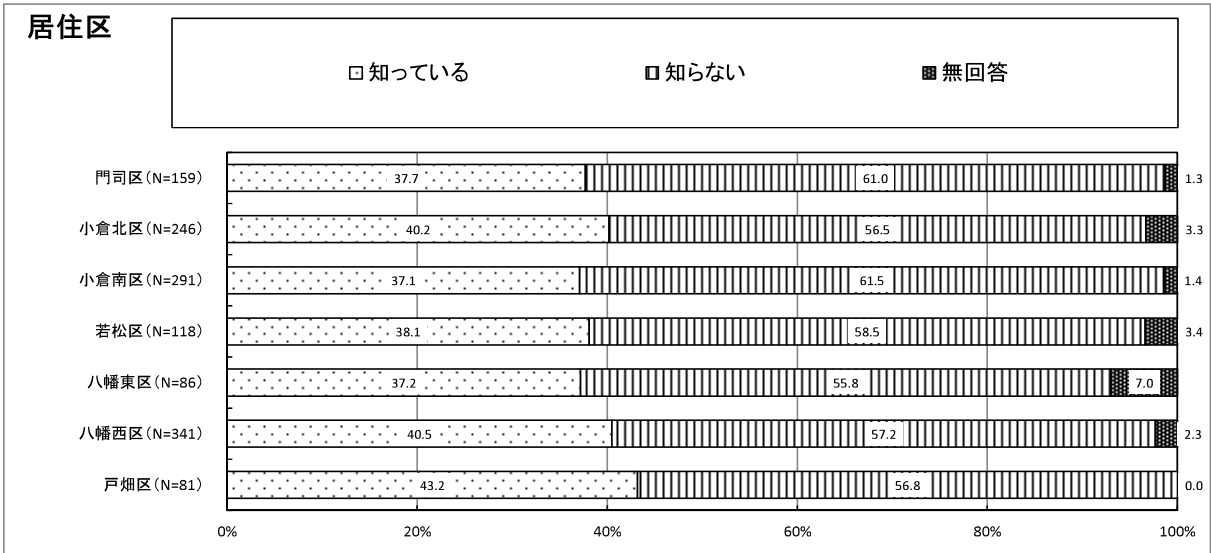
- ◇ 北九州市が国家戦略特区に指定されたことを、  
1位 「知らない」(58.5%)  
2位 「知っている」(39.1%)



## 国家戦略特区について







(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

## 国家戦略特区について

### 【全体的傾向】

北九州市が国の「国家戦略特区」に指定されたことを知っているかに対する、市民の認知度をみると、「知っている」は39.1%、「知らない」は58.5%となった。

### 【属性別にみた傾向】

- 性別にみると、「知っている」は男性（47.5%）が女性（33.2%）を14.3ポイント上回っている。
- 年齢別にみると、70歳以上は「知っている」が49.1%、「知らない」が46.8%で、唯一「知っている」が「知らない」を上回っている。
- 職業別にみると、「知っている」は公務員・教員（53.1%）で唯一5割を上回っている。
- 居住区別にみると、「知っている」は戸畑区（43.2%）で最も高く、小倉南区（37.1%）で最も低くなっている。

(20) 生活満足度について

問 26 あなたは、北九州市での生活全般について満足していますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても満足している	106	8.0
2 ある程度満足している	830	62.8
3 どちらとも言えない	239	18.1
4 あまり満足していない	109	8.2
5 ほとんど満足していない	18	1.4
無回答	20	1.5

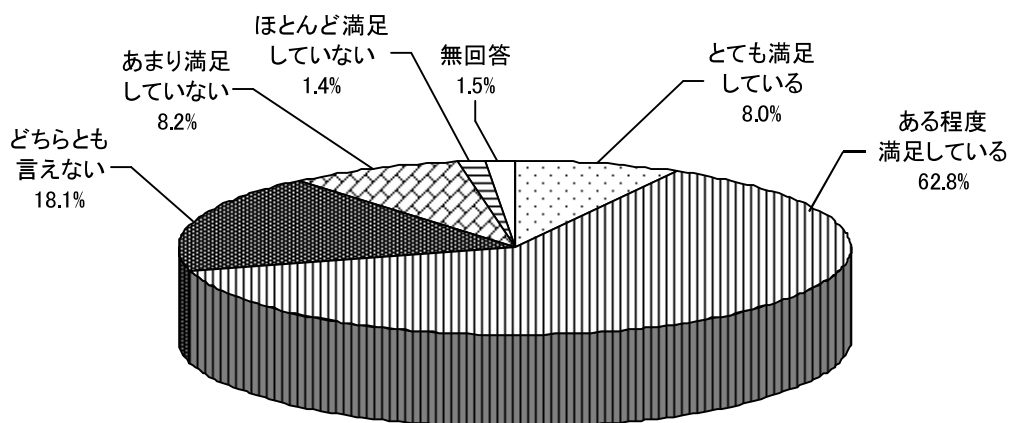
◇ 北九州市での生活全般について満足度は、

・満足派 70.8%

(「とても満足している」8.0%+「ある程度満足している」62.8%)

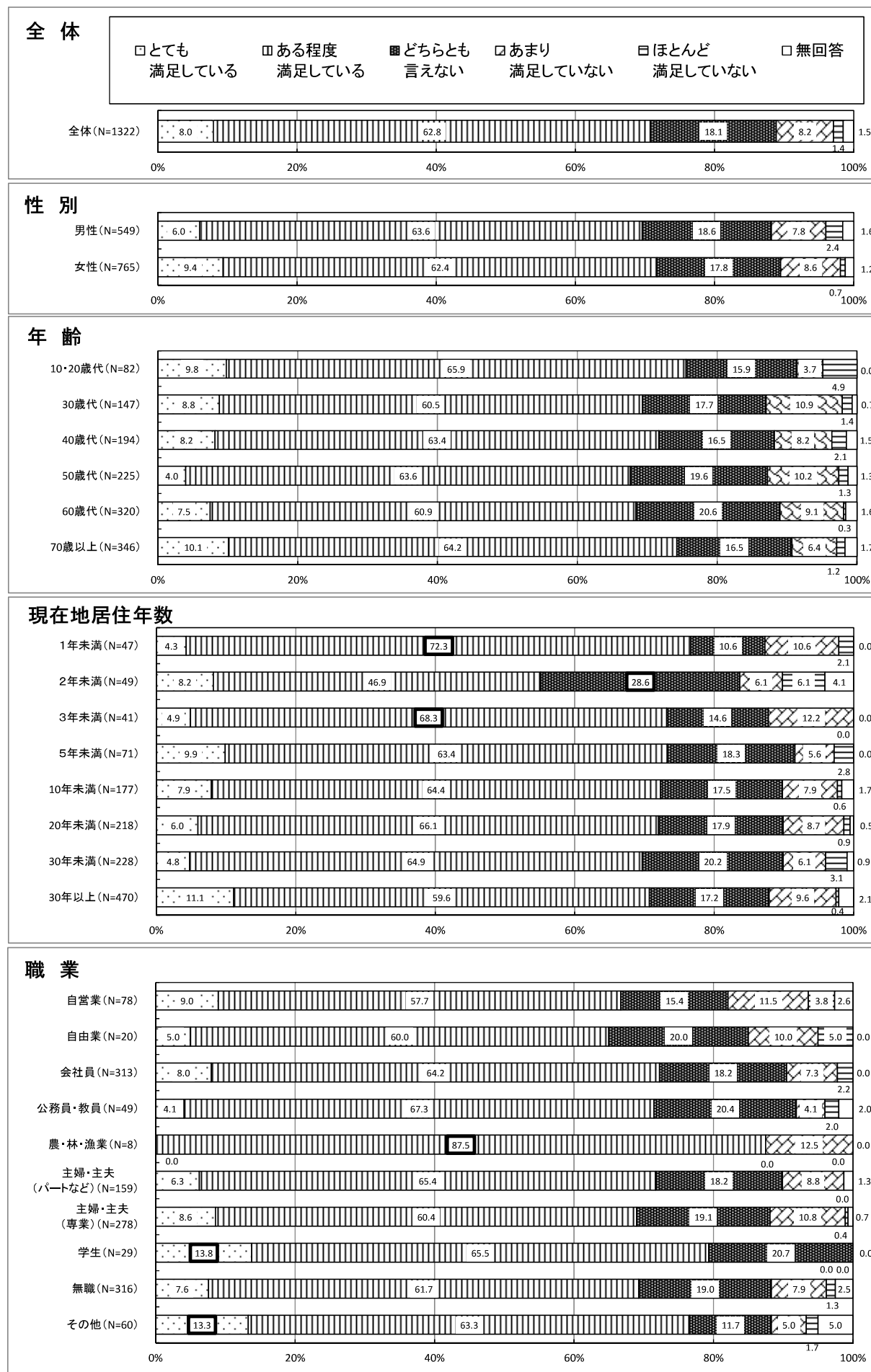
・不満派 9.6%

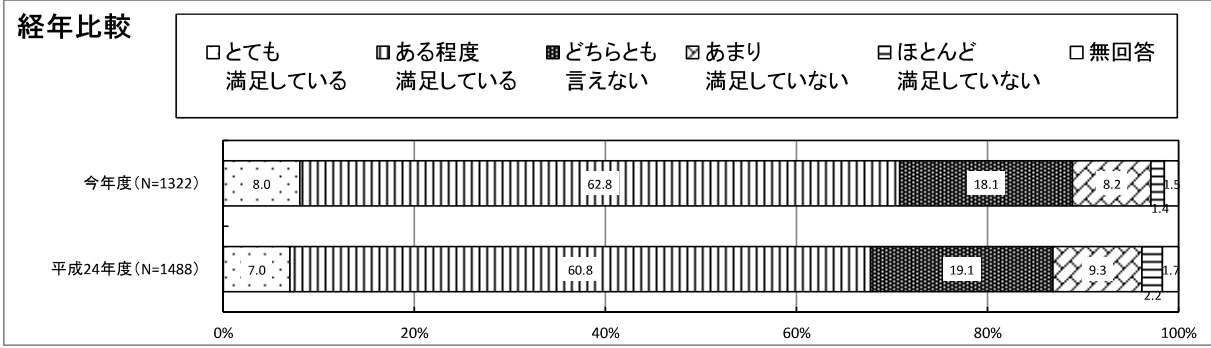
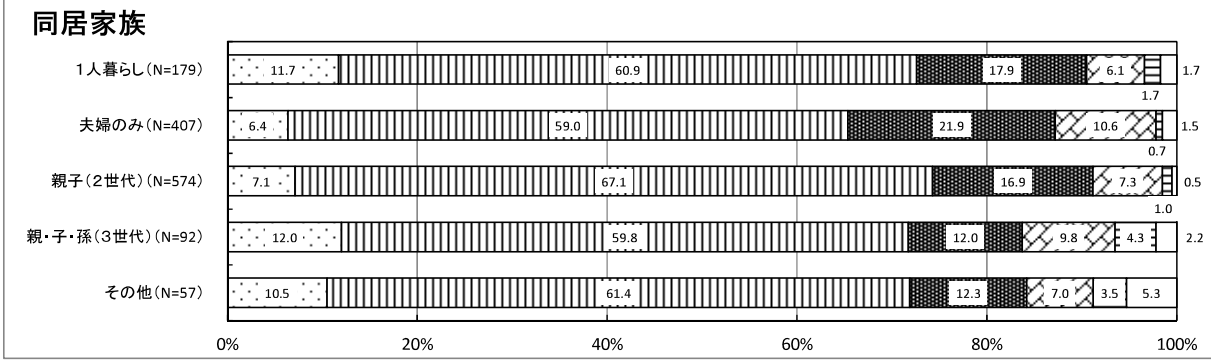
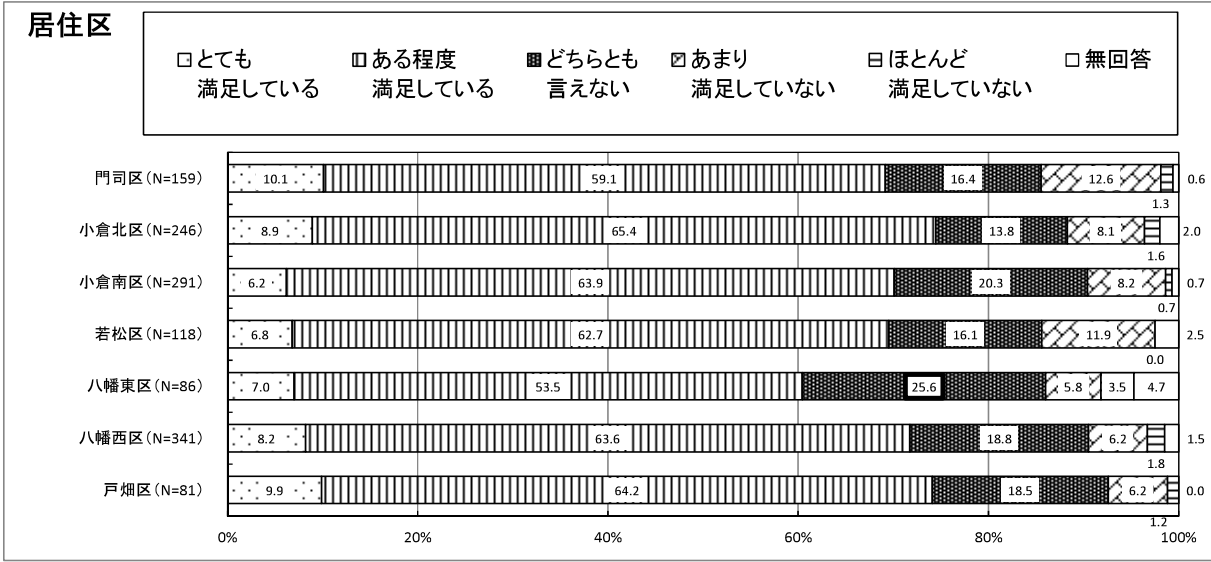
(「あまり満足していない」8.2%+「ほとんど満足していない」1.4%)



とても満足している  
  ある程度満足している  
  どちらとも言えない  
  あまり満足していない  
  ほとんど満足していない  
  無回答

## 生活満足度について





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

## 生活満足度について

### 【全体的傾向】

北九州市での生活全般に対する、市民の満足度をみると、「とても満足している」は8.0%、「ある程度満足している」は62.8%で合計すると、肯定層は70.8%である。一方、「あまり満足していない」は8.2%、「ほとんど満足していない」は1.4%、合計すると、否定層は9.6%である。

肯定層（70.8%）が否定層（9.6%）を61.2ポイントと非常に大きく上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 居住区別にみると、肯定層は小倉北区（74.3%）で最も高く、八幡東区（60.5%）で最も低くなっている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成24年度（67.8%）に対し、今年度（70.8%）は高くなっている。否定層は、平成24年度（11.5%）に対し、今年度（9.6%）は低くなっている。